



亜鉛欠乏症の臨床

宮田 學 著

(近畿健康管理センターウエルネスなんば診療所長)



亜鉛欠乏症が潜在する昨今において

覚醒を促がす臨床医必見の良書

荒川 泰昭・日本微量元素学会理事 長

B5判
124頁
定価 3,990円
ISBN 978-4-7653-1393-3

金芳堂
☎075-751-1111



人の体の中の元素は、健康のときは、一定の割合（生理的最適濃度範囲）でバランスが保たれてい

るが、外来の異物が入り込んできたり、逆に内在の元素が1つ欠乏したり過剰になったりすると、全体の元素バランスが攪乱され、酵素や生理活性物質の機能障害が誘発され、種々の疾病が誘発される。亜鉛欠乏になると、亜鉛は300種以上の酵素、ホルモン、サイトカインの活性中心であるため、体のあらゆる部位が障害を受け、脳機能障害（記憶・学習障害）、免疫不全、性機能障害、皮膚障害、嗅覚障害、味覚障害、その他代謝機能障害など、広範な疾病が誘発される。

本書では、「必須微量元素としての亜鉛」、「亜鉛の体内分布と1日必要量」、「亜鉛の生理作用」、「亜鉛欠乏症」、「疾患と亜鉛」、「老化と亜鉛」など、「亜鉛栄養の臨床」についての最新情報が一目瞭然に理解できるよう総合的にまとめられている。

亜鉛欠乏症で悩み苦しんでいる患者が多数いるにもかかわらず、その症状を亜鉛欠乏症と気づかずにいる臨床医が多いという現状を

考える時、今こそ「亜鉛治療の重要性」について、正しい知見・知識の理解が必要であり、臨床医の意識や認識の変容が必要である。

亜鉛の臨床研究の底辺が広がっておらず、亜鉛欠乏症が潜在する昨今、日本微量元素学会でも「臨床面での亜鉛治療の重要性」を啓蒙ならびに教育していかなければならぬ必要性を声高に提唱していた矢先、まさに時を得た本書の発刊である。

多くの実地医家の先生方が「亜鉛と健康」―不老と長寿の必須微量元素・亜鉛に興味を持っていただけ、広く知識を身につけて実地医療に役立てていただくための著書としては、最もお勧めできる1冊である。

臨床医学、特に老年医学の分野における亜鉛の重要性と可能性を謳い、臨床分野への啓蒙・教育を熱望し、「亜鉛のすばらしい働き」を臨床医に広く知ってほしいと願う宮田學先生の意気込みと情熱を感じ、そしてその姿勢に共鳴し、感銘する大著である。